就職最前線

可能性は無限？

高等専修学校　進路指導部

「将来はどんな職業に就きたい？」という問に、目を輝かせて、純粋になりたいものを口にしていた幼い頃、将に可能性は無限にひろがっていた。

いつからか、「なりたいもの」と「なれるもの」、「やりたいこと」と「やれること」の違いに気付き始め、その距離は開くばかり。現実の中で自己の可能性を見失い、右へ倣えを納得する。

特に障害者雇用においては、用意された業務に適応していくことが採用の最短距離だ。例えば、情報コースで学んでいるからといって必ずしもＰＣ業務に就くわけではない。調理コースに身を置くからといって、飲食業に進まなければいけない訳ではない。

学ぶことの意味に立ち返ってみたい。そもそも何故学舎に通い、様々なことを学ぶのか。全ては人として豊かになる為ではなかったか。目先のことにとらわれすぎて小さくまとまり過ぎてはいないだろうか。様々な角度から刺激を受け、荒削りながら伸びやかに育ってきた生徒の方が魅力的だ。

社会人に必要なスキルやビジネスマナーは教えれば身に付いていくものである。しかし、魅力的な人柄は、成長してから教えられるものではない。今までの年月の過ごし方が、その生徒の人となりとして蓄積されているのである。その魅力を感じさせ

るところに無限の可能性が隠れていると考える。

ある卒業生は、東京タワーの正面玄関に自分の居場所を見つけた。個人のお客様は勿論のこと、団体のお客様方にも施設説明を行い、好評を得ている。

また、ある卒業生は、重要な会議に出席し、聴覚障害の社員に対するＰＣを用いた同時通訳を行っている。発言の真意を捉え、要約する。入力スピードもさることながら、その語学力には定評がある。

この他にも、入社後に自らの魅力で業務に付加価値をつけ、輝きを増している卒業生も多い。

近々、障害者の雇用率が１．８％から２％に引き上げられる。０．２％分広がったチャンスに期待するのではなく、雇用率などに左右されない確固たる魅力を身につけることが大切である。そうすれば、可能性は無限の広がりを見せるだろう。